

第2回学校運営協議会

国分寺東小学校会議室にて

1 日 時 令和3年10月19日(火) 10:20~12:20

2 参加者 学校運営協議会委員 増渚晴美 大垣玉枝 下山千恵子 吉田 聡
諏訪美津枝 大橋義一 五十畑 直 山家幸勝
隅内 宏(本校校長)
地域学校協働活動推進委員 宮川 長一
事務局 石島 直(本校教頭)、近江成美(本校教務主任)
※下野市教育委員会学校教育課 松川博美主幹兼指導主事も参加されました。

3 内 容

(1) 児童表彰式 参列

(2) 学校運営協議会

① 児童表彰式について

② 協議

ア 令和3年度 学校評価(教育に関するアンケート)の質問項目について

※別紙資料を基に説明

○昨年度、国分寺中学校区として学校評価の児童・保護者・教職員用の質問項目を3校ともに共通にし、初めて学校評価を実施した。配付した資料は3校の結果をまとめたものである。小学校2校についてはほぼ同じような傾向が見られたが、小中ともに高い項目、小学校は高いが中学校は低い項目、小学校は低いが中学校は高いという項目が見られた。この結果を踏まえ、これまで行ってきた活動を見直したり、低い項目を向上させるためにどんな活動を行うのがよいか小中一貫の日に検討したりしている。

○特に質問No.5「読書について」は児童・生徒においては中学校で、保護者からは小中ともに家庭では低い傾向が目立っていたこともあり、小中一貫の活動として、中学生による小学生への読み聞かせを昨年度からはじめたり、今年度は、家読の推進を小中一貫として実施したりしている。

○しばらくの間、項目を大きく変更させずに経年変化を見ていきたいと考えている。
→児童表彰式、毎年参観しているが、今年度もとても感動した。こういうご時世だからこそ、夢をもった環境が実現できるようになってほしい。読み聞かせボランティアで児童に関わっているが、1年生から6年生までいつも目を輝かせて聞いている。しかし自分の読書となると特に中学生は難しいと思う。子供たちが本に興味をもって楽しんでくれるとうれしいので、今後も協力していきたい。

→本日の表彰、代表で御礼の言葉を読んだ児童も言っていたが、本当に実施できてよかった。感染症の対策により、いろんなことができなくなっているなかで卒業していく子供たちなので、活動が少しでもできるとよい。学校評価については質問項目No.16から20までの先生に関することや学校のことの数値が高い。子供たちも保護者も学校に頼っているということが分かる数値でとても嬉しい。

→児童表彰に参加させていただきとても嬉しい。子供たちの様子から、目の輝きが見られ、感染症などへのプレッシャーやいらつきなども見られずとてもよかった。6年生、5年生ともに立派だった。先生方のご努力によりアンケートのNo.17、18について、コロナに対する姿勢や生活での対応など、「コロナになった人が悪いのではない。」と孫の話からもよく伝わってくる。No.11「あいさつ」やNo.12「言葉遣い」について、保護者や教職員の評価が低い、子供は親の背中を見て育つのであるからこそ、言葉の扱い方を保護者が大切にしているのか。ある先生の意見で「言葉はその人を表すものであり、同じ一言でも言葉や挨拶の大切さを心から思っていればかわってくるものである。」と思う。学校を離れると挨拶が小さくなるように感じる。社会情勢上仕方がないかとは思いますが。

→ちなみに挨拶は学年の傾向が見られるか。

○アンケートについては学級ごとに集計しているので大まかな傾向は分かる。

- 学校運営協議会としての児童表彰への参加は初めてであったが、自分自身が小学校の時に経験し、表彰式が嬉しかったことを覚えている。現在、見守りボランティアとして毎日子供たちに関わっている。散歩している人に挨拶をするように言っているがなかなかできない。怪しい人に挨拶をしてもうーんとなって挨拶が返ってこないことが多いと話している。低学年がなかなか挨拶できない。しかし、小学校で挨拶ができなかった子が中学生になって挨拶をしてくることもある。1年生に子供がいるのでしばらくの間、学校に関わるので今後も見ていきたい。
- 下校時の見守りボランティアをしているが、最初はなかなか挨拶できなかったが、最近は多くの児童が挨拶するようになってきた。継続は力なりだと思う。
- 先ほどの学校評価の教頭先生の説明にもあったが、朝の読書については中学生になると忙しくてなかなかできなくなるが、読書についての向上に関する内容がひがしっ子の第6号に記載されていた。下野市で行っている新聞の日の記事に、新聞を読んで意見交換をしている、回数も3回から5回に増えたとあり、これが読書活動の推進、学校評価のアンケートに当てはまってくると思う。中学生には、朝日新聞の「天声人語」がよいと思う。
- 児童表彰式、今回は孫が関わっておりとても感動した。Withコロナとして活動する学校の対応、保護者も真剣に聞いていてよかった。今後も、「どうやってできるか。」と考えていければと思っている。孫は学童野球を行っているが、東小の子供たちは挨拶はできていると思う。読書については、中学生が数値が低いのは、部活や受験勉強で大変になっていくからかもしれない。
- いつも子供たちの姿が立派だと思う。今回、市長の話が聞き取りにくかったが、マイクの影響か。
- 本校の体育館の音響関係は、以前から調子が悪い。今後、電波法の関係で現在使用しているマイクが使用できなくなる。昨日、次年度の予算説明会に参加しその話が出たが、教育総務課でマイクについては検討しているようである。しかし、本校の音響についてはスピーカーが影響しているため改善するかどうかは分からない。
- その後の校長先生の話はよく聞こえたので、話し方の問題かもしれない。アンケートについて、楽しく前向きに学校生活を送ってほしいことから、No. 20の質問の数値が高いことに安心している。娘が中学2年生にいますが、中学校では1クラスに2～3人位学校に来られない生徒がいる。東小ではどうか。
- 全く学校に来られないという児童はいない。少し欠席日数が多いなどの心配な児童はいるので、保護者と連携しながら支援している。
- 中学校になると、受験(検)や部活、友達関係で悩む子供も多くなるのかもしれない。今の東小の子供たちの姿を中学校につなげていければよいと思う。
- 皆さんの話から、東小は前向きであるということが多く聞こえた。推進委員からのご意見をお願いしたい。
- 今回、参加できたことに感謝する。国分寺小は、児童表彰に今年度も学校運営協議会の委員さんと呼ぶことはできていない。東小は「何ができて何ができないか」をよく考えており、質問項目No. 10「学校行事に進んで取り組んでいる」という数値も高い。先生方も前向きで、コロナの話だけでない話ができることよい。この後何ができるかを考えていこうという創造性のある取組を行ってほしい。

イ 本校のコロナウィルス感染症対応と学校行事について

- 本日の児童表彰式。参加いただきありがとうございました。本校のこれまでの対応について説明させていただく。
- コロナ対策については、「マスク着用、手洗い、消毒、換気、密をさける」を徹底してきた。授業中の活動や学校行事の内容と折り合いを付けながら、なるべく「学校ならではの活動」を大切にすることも忘れずに進めてきた。
- 昨年度は休校から始まったが、今年度は通常通りスタートすることができた。すでに報告させていただいたが、5月中旬、複数の学校関係者の感染事案が発生したが、更に拡大することはなく収束できた。しかし6月2日から予定されていた修学旅行は9月14日に延期した。
- それ以外は、昨年度は行えなかった各学年の校外学習、音楽鑑賞会や、5年生の田植え、お世話になっている読みきかせ活動など、分散開催や、内容の縮小などの措置を講じながら、実施することができた。プールの授業も回数は少なかったが実施できた。

- しかし、夏休み中に第5波が到来し、栃木県も緊急事態措置が発令され、9/30まで解除されなかった。そのため、9月14日の修学旅行、17日の3年日光遠足、22日の5年の栃木県庁の見学を延期した。そうした中、9月末に学校関係者の感染事案が発生したが、関係各位のご指導とご協力で静かに見守っていただき無事収束できた。今年度、GIGAスクールにより、タブレット一人一端末が配布され、自宅への持ち帰りが始まったところだったため、自宅待機中の児童と担任が放課後、Zoomでつながり、学習も進めることができた。保護者からもありがたいという言葉をいただいた。
- 10/21(木)に1・2年生の遠足、10/25(月)には4年生の那須宿泊学習、10/27(水)には5年生の臨海自然教室が行われる。その後11/13(土)が運動会、12/16(木)から修学旅行となる。前向きに捉えてコロナとつきあいながら感染予防に努め、これらの学校行事を無事に開催できるように、全力を尽くしたい。
- 何かお気付きの点や確認事項があればお願いしたい。推進委員、アドバイザーとしてご意見をお願いしたい。
- コロナ禍の中で先生方は子供たちに特別な手当てをしなければと対応しており、年配の先生方がZoomなどのPCの研修に時間をかけたり、若手の先生方は、経験値が少ない上にコロナ対応等でとても苦しんでいる。管理職も、子供たちがどういうふうにしたら安全にできるか常に検討している。学校をどういうふうに地域がサポートしていくか。学校と地域が双方向で関わるとよい。小中学校での読み聞かせ、中学生が小学校に行って落ち葉掃きなど、昨年度国中学区で行った。こういう所に地域が入っていくこともよいのではないか。公民館で講座を行っているが、来年度「庭師になりましょう」という講座の開設を予定している。これは、国小、東小、国中の低木を剪定する講座である。樹木は手が入る(刈る)ことにより、きれいに見える。こういう活動が学校でうまく動き出せば、地域が学校に入っていくことにもなる。まずは何かやっていないかと考えている。

③ その他

- ・令和3年度下野市ふれあい学習推進委員会並びに学校運営協議会研修会について
- ・令和3年度運動会の来賓不参加について

④ 事務連絡

第3回学校運営協議会 2月24日(木)

- ・6年生を送る会の参観
- ・学校評価の結果、次年度の学校経営構想について協議
- ・給食試食

⑤ 市教委指導主事より

- 本日、市教委より指導主事が来校している。先ほど新聞の日について話題が出たが、新聞の日については、市の予算を利用しており昨年度は下野新聞を3回、今年度は下野新聞と読売こども新聞併せて5回となった。市教委の協力によるものである。中学生には朝日新聞という話題も出たのでぜひ参考にしていただきたい。
- 学校運営協議会担当として、昨年度から各学校の学校運営協議会に参加している。これまで、東小とはタイミングが合わず今回が初めてである。本校は地域と学校の連携が古くから行われておりとても深い。昨年度はコミュニティースクールの全国フォーラムに東小として発表していただいた。話を聞いていて、委員の皆さんがそれぞれの立場で様々な取組を行っていることがよく分かった。委員の皆様が具体的な形で学校の活動に入っている。地域と連携し、深めていただいていることに感謝するとともに、今後も学校を支援して欲しい。